

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人ささえ愛ひかりの家		
事業所名	グループホーム「ほのぼの」		
所在地	熊本市西区河内町白浜2238番地		
自己評価作成日	令和6年9月3日	評価結果市町村受理日	令和6年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みかん山や海が見える自然豊かな田舎、施設の裏にはイチゴ畑があり、収穫時期になると甘い香りがしてきます。静かな落ち着いた雰囲気、ゆっくりとした時間を過ごして頂けるように心がけています。地域とのつながりを大事にして、施設がお手伝いできる所や参加できる行事など、地域の自治会へ発信しています。施設で行う勉強会など、地域の方にも参加の呼びかけを行い、一緒に学ぶ機会を持つ様にしています。また看護師が常時対応できる体制を取り、医療面でも早期発見・対応にて、ご家族様にも安心感を与え関係性はとれていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当地域に開設して13年の月日が経ちその存在は行事への参加やホームが企画したセミナーなどに足を運んでもらうことで、しっかりと認知されている。職員は敬老の日の集まりに会場内の誘導や水分補給を手伝い、相撲大会などと同様に手作りおやつの差し入れを持参して参加している。運営推進会議で出された漏電が原因とされる火災が多発していることを受け、定期的にチェックするシートの作成につながっている。また地域の避難所とされている場所にも不備があることなど様々な意見が出ており、地域や行政と連携し、もっと掘り下げて決めていく事項だとしている。支援を入居者目線にすることで入浴その日のその方の体調によって決め、浴槽に入れる方が少なくなったことでシャワー浴と足浴を併用し、「久しぶりに入った〜!」「だいが入っとらんだった!」の言葉にも同調しながら対応している。今後も入居者がより良い日々を過ごすためのホームの姿勢が期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は常に見える場所に掲げており、職員が常に意識できるようにしている。又ミーティングにおいて確認する機会を設けている	開設時の理念を見直した際に職員のみならず、家族や地域の人々によりわかりやすく端的なものとしており、現在のホームに受け継がれている。ミーティングで日々の支援を振り返りながら原点に立ち返り、異動により新たにホームの一員となった職員には法人の思いを共有しながら、共に入居者支援にあたるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	講演会など地域の方にも参加の呼びかけを行い、防犯セミナーやAED講習に参加されている。又挨拶は積極的に行う様にしている	地元警察による防犯セミナーには家族や地域の人々にも参加を呼びかけ、防犯への意識強化と地域の現状を共有している。散歩中には近隣の人々と挨拶を交わし、保育園児との交流や馴染みの神社行事(子ども相撲大会)を楽しみにされるなど地域での暮らしを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があったときには、答えることができるようにしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、地域関係者の方やご家族様に出席して出た意見は、業務に活かすことができるようにしている	地域からの信頼は厚く運営推進会議にも多数の参加が得られている。対面開催が出来なかった際には資料送付により、メンバーから資料に対する好意的な感想と意見が返送されており、職員の励みとなっている。地域行事へ率先して参加し、社会状況をみてホームで開催したセミナーなど、地域情報の発信及び共有の場となっている。	身体拘束や虐待については勉強会の報告及び該当事例が無かったことについて発信し、ホームの取組を通じて透明性を図る事を検討願いたい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密ではないが、分からない事等随時相談し協力を得るようにしている	運営推進会議には包括職員が参加しており、ホームの現状を共有している。書類提出などには区役所に出向き、入居者の身体状況に応じた車いすの選択や購入に関する相談などに応じてもらいながら友好な関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行わず、委員会を設置し定期的に勉強会を行い、振り返る機会を持っている	職員は身体拘束及び虐待について勉強会の機会をもっている。入居者への支援が重なる時に、声掛けの仕方やトーンでわかりやすく対応し、不快感を与えることなく待ってもらえるような対応を申し合わせている。食事中のエプロンの使用については、事前につける事や入居者が自身で付けられる際には首周りの圧迫などがいないか状態をチェックするようにしている。	玄関などに身体拘束や虐待防止の“指針”を掲示することで職員の意識付けとし、外来者に向けたホームの方針を啓発されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても職員全員が学ぶ機会を持ち、理解し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行う事で、職員一人一人が理解し活用できる場を作るよう努力中である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解し納得されたうえで契約を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナが5類になった事で面会も増え、家族の意見を確認でき反映できるようになった。 また家族会を開催できるようになった	コロナ禍移行久しぶりの家族会が開催されている。家族の意見や要望は面会時や電話、運営推進会議などで収集しており、寄せられた要望はホーム運営や入居者支援に反映させている。2か月ごとの個別の近況報告や広報誌(ほのぼの便り)の発送により、家族に安心してもらい更なる意見の引き出しに努力している。入居者からは家族への電話を希望されたりするものの、要望は少ないようであり、職員は普段の関わりから思いをくみ取るようにしている。	今後は定期的な家族アンケートにより意見や要望を確認することも有効と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会やミーティング等で出た意見は、その都度話し合う機会を設け検討している	管理者は法人の管理者会で出た意見や共有事項をホームに伝え、職員意見や要望をミーティングで検討し、必要によって管理者会にあげるようにしている。夜間専任者を含む勤務状況に対する意見に、調整を検討する他希望休や有休がとりやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は努力はされているが、やりがいや向上心を持って働けるかは難しいところです		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングは難しいが、研修を受ける機会への声掛けは行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体的な交流は今後の課題である		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に本人・家族の要望を聞き、可能な限り日常のケアに取り入れ安心に繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時も現在も、家族とは気軽に意見交換できるように、不安な点や要望などは連絡をして頂く様に伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で受入れが可能であるかは話し合いを行い、対応できる範囲を提示し納得の上でサービスを導入している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできることを探し、少しでも参加が出来るような関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に必要な物品の依頼や、定期的な補聴器の電池交換など役割をもって協力を得ている。また面会制限が解除されてから、家族と一緒に外出したり、いつでも会える状況にある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を取った上で、ご近所の方やご友人の面会を受け入れている	入居者にとって身近な家族や親族はもちろん、近隣の人々や行事も含め馴染みのものであり大事にしたいとしている。昔からのみかんの産地である地域は、恒例のみかん山ドライブを実施しており、馴染みの光景にそれぞれに昔話をはじめられるようである。帰省は難しくなっているが、レストランへの外出や病院受診の付き添いなど、家族の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや施設の行事等にできる限り参加をして頂き、間に職員が入り孤立しないように支援しトラブルにならない様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談があれば支援が出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が出来るように、希望や意向を確認している	入居者が普段自ら要望を口にされることは少ないようであるが、リビングで寛がれている際や入浴時1対1の場面では、日々の何気ない話をされるようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族・前ケアマネより情報を収集し、これ迄の生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせた過ごし方を把握し、職員間で支援方法など情報共有を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族・主治医の意見確認し、職員間で話し合いを行い介護サービス計画に反映できるように、見直しと検討を行っている	ケアマネジャーは入居者・家族の要望や担当医の意見などを総合的に判断してプランを立案している。入居者、家族の思いはプランにそのまま盛り込み、今ある機能を生かして落ち着いた環境で過ごしてもらうための内容を入れている。自立の延長のために医師と連携しトイレでの排泄を継続するための下肢筋力維持に努め、食形態や料理に応じた器具を使い分けながら自力摂取を支援している。職員意見を反映し毎月のモニタリングで現状を評価している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝・夕の申し送りで個別の変化を確認し、その都度問題解決のために話し合い検討を行っている。変更があれば申し送りノートに記載し、職員全員が共有できるようにしている。毎月モニタリングを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人・ご家族様のニーズに沿えるように支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へ一緒に出向くことは難しい為、施設の行事への参加を呼び掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、可能であれば送迎の支援も行っている	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、現在、訪問診療や家族対応による受診外出支援が行われている。専門医受診については家族に依頼しているが、難しい場合はホームでも可能な限り応じている。食後は見守りや介助により歯磨きを支援しており、歯磨き粉や歯ブラシの購入は家族や職員が適切な物を購入している。	受診結果については異常があれば家族への報告が行われているが、異常などがなかったことも家族へ伝えることで安心や相談を受けられる機会につながるものと思われる。取り組みに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、必要に応じ看護師に相談し主治医に報告している。必要であれば受診の支援も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院時は、必要な情報提供書を出し、入院期間中は状況確認のため面会にも行くようにしている。また退院時に受入れがスムーズに行くように会議にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化時はその都度話し合いを行い、ご家族様が納得がいくような形をとる様にしている。これまで看取りの経験があり、状況に応じて意向の確認を行いチームで取り組むようにしている	入居時にホームの看取りに関する取組を説明し、その時点での意向をアンケート様式で確認し、その後も状況に応じて聞き取っている。ホームで出来る対応は限られているが、コロナ禍も終末期の場合は出来る限り家族の面会の機会を作り、双方が安心して最期を迎えることが出来る様な支援が行われている。支援後は本人を偲びながら振り返りの機会を持ち、今後に生かすことが出来る様にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は迅速な対応が出来るように、年に1回消防署の指導の下講習会を行っている。今回は8月にフクダ電子によるAED使用について、職員・地域の方が勉強会に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回災害訓練を行い、そのうち1回は消防署の指導の下で、昼夜の時間帯を想定し避難訓練を実施している	今年度の災害訓練は5月に自主訓練を11月に消防署の参加協力を得て実施する予定である。また6月の防犯訓練では地域派出所より防犯セミナーが行われている。災害備蓄はホームや本体で確保し、台風接近時は入居者に不安が無いよう夜勤も2名で対応している。BCPの作成を済ませており、机上訓練も1度行っている。運営推進会議ではメンバーより掃除の際のコンセントの埃の確認の徹底や近隣地域の方々からも出されている協力体制について意見があがっているようである。	今後、防災を含め運営推進会議の中で地域への協力依頼に関する内容をまとめ連携の強化を図られることが期待される。コンセントの埃の確認に加えホーム周辺の可燃物の確認や通路に歩行の妨げになるものは無いかなど引き続き定期的なチェックの機会を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・態度などには、職員一人一人が注意をして、接遇についての研修を行い自分自身のケアや行動について振り返る様に努めている	入居者の気持ちに寄り添った介護を心がけることを共有し、接遇については年間研修計画の中で徹底を図る他、振り返りの機会を持っている。呼称は苗字にさん付けとしているが、同姓者がおられる場合は下の名前でも対応している。管理者は時々職員同士の話が続き、入居者が不在になってしまう場面があり注意する事等、気付いたことはその都度伝達している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを急がずゆっくり対応することで、利用者様の思いを表情や言葉で伝えられる様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは概ね決まっているが、ご本人の意思を尊重できるように、活動への参加は強制はしていない。ご本人のペースで生活して頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら選べる方は自分で服を選んで頂き、できない方は声掛けと支援をしている。3ヶ月に1回は美容師の方に来て頂き、カットが出来るように予約をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつなどレクリエーションの一環として、利用者様がお手伝いできる範囲でお願いをしている。食事は同事業所の栄養士が献立を立て、バランスに配慮された食事・形態を提供している	法人で栄養士による献立作成や調理が行われ配達されている。食形態は嚥下力に応じ常食やひと口大、きざみ、ミキサー食で提供しており、席も介助の状態とその都度検討している。入居者の希望はホーム内のイベント食で対応しており、たこやきや焼きそば、芋と栗を使った茶巾絞りなど入居者もできることに取り組んでもらっている。この夏は職員のアイデアでペットボトルを活用したソーメン流しが好評だったようである。今月はホーム内運動会で巻きや稲荷ずしを弁当箱に詰め、運動会気分を味わってもらう予定である。職員は弁当を持参しているが、グループホームが検食の月もあり、担当日には気づき等を記入している。	たこ焼きパーティやそうめん流しなどイベント食の様子は広報紙の中で写真を添えて紹介されている。今後は普段の食事についても紹介することで家族の安心につながると思われる。取組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて食事形態を変更し、食べやすいように工夫はしている。食事量や水分量は毎回チェックを行い、不足しないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、介助が必要な方は支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄可能な方はトイレの支援を行い、入居者全員の排泄パターンを把握しケアに当たっている。	可能な限りトイレでの排泄を基本とし、排泄用品の選択も個々に応じて検討している。トイレは3か所設けられており、それぞれが使い慣れた所を使用されている。ポータブルトイレも夜間のみや日中の休憩時に使用される方もおられ、常に清潔に使用できるよう確認している。排泄の状況は家族へも伝えながら、用品の購入の参考になるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量の把握、好き嫌いはあるが朝食に牛乳を提供している。定期的な受診や往診により、必要であれば主治医に相談し薬を処方して頂き、看護師でコントロールされている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、その時の体調や状況を考慮して柔軟に対応をしている。季節ではしょうぶ湯やゆず湯など、楽しんでいただけるように工夫はしている	個々の体調に配慮しながら二日や三日置きの入浴を支援し、その後の水分補給は冷や温めを希望を聞きながら提供している。浴槽に浸かる方は少なくなっており、機械浴を備えているが殆どが揺れを怖がられるなど好まれないことから、足浴を併用しながらシャワー浴の支援が行われている。入浴前は「今日はちょっと～」と拒まれる方も入られると、ゆっくり楽しまれるようである。また、「初めて入ります！」「久しぶりに入る！」と話される方にも職員は否定することなく傾聴しながら対応し入浴を楽しんでもらうことを全職員で共有している。菖蒲や柚子の季節湯は全員が楽しめるよう3日間実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋げるように活動への参加を声掛けしていますが、ご本人の意向や体調を把握し、ゆっくりと休息できるようにも支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用している薬の文献を、職員全員が閲覧できるように管理している。また誤薬に対してはダブルチェックを行い、服用後は一日分の薬袋を残すようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みを把握し、生活の中に取り入れられるように支援している。風船バレー・唄・塗り絵・箱折・洗濯たたみなど、本人に合った活動や作業を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい時は気分転換に近所を散歩したり、季節ごと花見や紅葉見学など、戸外に出かけられるように計画をしている。ご家族様にも協力を求め、可能な範囲で支援をお願いしている	昨今の猛暑などから過ごしやすい季節はわずかであり、現在は春と秋のわずかな期間を中心に近隣のみかん畑や苺ハウス、川で泳ぐ魚を見るなど散歩を楽しんでいる。徒歩で行けるお宮へは正月参りや今月には地域の子供相撲が開催されることから、可能な入居者の見学を予定している。また、秋のドライブとしてみかん畑見学も計画しており、入居者にとって嬉しい外出になると思われる。ホームの玄関先にはメダカも飼育されており、様子を見たり外気浴を兼ね庭先でおやつを楽しむ時間も持たれている。	家族の協力による受診や地域のレストランでおやつを楽しめる方もおられる。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者の希望や楽しみとなる外出支援に努めていかれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては所持して頂き、難しい方には家族をお願いしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方に対しては自由に連絡して頂き、電話を希望される方に対しては対応をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる様に職員と共同で制作し、共同スペースや居室前に展示している。季節の野菜を栽培したり、メダカも飼育している。また環境にも恵まれ、ミカン山や海など自然を楽しんでいます	食事をはじめ入居者が日中の殆どを過ごすリビングホールは、担当職員がアイデアを出しながら季節の飾り物を制作している。入居者も出来る作業に関わっており、来訪する家族にも紹介している。また、ホーム内の掲示物は定期的に損傷などを確認している。席の配置は身体状況や相性なども考慮して検討し、穏やかなひと時となるよう努めている。明るいリビングでは訪問当日も職員手作りのゲームを楽しむ光景が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	慣れた場所・席を好まれるが、こだわりを少なくできるようにテーブルの位置、状況に応じて模様替えを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂き、作品の展示や写真も飾られている。転倒防止のため、配置は職員が考えている	使いやすい広さの居室は「すずらん」や「すいとぴー」など花名が表札代わりにもなっている。衣服や枕、布団などの寝具をはじめ本人がこれまで自宅で使い慣れた物品の持ち込みを依頼しており、必要に応じてテレビが置かれた部屋も見られる。居室内は身体状況などを踏まえ、職員が必要時に配置を検討している。昼食後は自室でひと休みされる方が殆どであり、一日を通し季節や個々に応じた温度調節にも配慮している。	季節感や楽しみにもつながるよう、本人の好みや趣味(花・動物・車)などのカレンダーの掲示は身近に出来る環境整備と思われる。家族の協力も得ながら検討されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手すりやスロープも設置し、安全に過ごせる様に環境作りを行っている。トイレの表示や居室のネームも分かりやすくしている		